

令和5年度 周南市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和6年5月

周南市（山口県）

○計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和2年度より、基本計画に基づき、「まちの資源を活かした、誰もが主役となれるまち 公園都市（パークタウン）周南」を中心市街地におけるまちづくりの理念に掲げ、「“賑わい”と“楽しさ”のあるまちづくり」及び「“利便性”と“快適さ”のあるまちづくり」の基本方針のもと、基本計画に掲げる各事業を推進している。

令和5年度は、「徳山駅前官民連携管理運営事業」を開始し、徳山駅前における公共空間の上質化を図り、賑わいの創出や公共施設の利活用を促進する取組を進めた。その管理運営窓口を、周南公立大学のサテライトオフィスを有するまちなか共創センター内に設置し、学生とイベント主催者のマッチングや、学生によるまちなか環境の向上にも取り組んでいるところである。

また、中心市街地活性化の核施設である徳山駅前賑わい交流施設の来館者数が1000万人を達成し、記念セレモニーを開催した。今後も賑わいと交流を創出する場として、指定管理者や地元団体と協力しながら様々な活動に取り組んでいく。

「徳山駅前地区第一種市街地再開発事業」においては、徳山駅前賑わい交流施設に隣接する「TOKUYAMA DECK」の商業棟・ホテル棟・駐車場棟・住宅棟が完成し、供用を開始した。令和6年1月からの商業棟テナントの順次開業や、ホテル棟のオープン、住宅棟の居住開始等により、駅周辺で買い物や食事を楽しむ人、宿泊者が増え、新たな賑わいが生まれた。新型コロナウイルス感染症や資材価格の高騰などの影響により、グランドオープンを令和6年4月に延期したが、TOKUYAMA DECKを会場にしたイベントなどで周知を行い、中心市街地の賑わい創出を図った。

再開発施設と商店街を繋ぐ役割を担う一番街では、人工芝やベンチ、植栽などを設置し、通りとしての魅力向上を図る社会実験を実施した。市民参加型のワークショップを行い、一番街の歩行者や周南公立大学の学生、子どもたちと共に、通りに愛着や親しみを感じてもらいながらストリートファニチャーを製作した。実施期間中は、休憩や待ち合わせ場所、イベント会場としても利用され、回遊性や滞在の質が向上し、将来の一番街を考える機運が醸成された。

本市中心市街地の人口は減少傾向であるが、住宅棟の供用開始等により一定の効果は期待できる見込みである。また、中心市街地の地価は住宅地、商業地共に継続的に上昇しており、エリア価値の向上や再開発事業への期待の高さが窺える。

今後も、計画に掲載している事業のほか、関係機関との連携を強化し、持続可能なまちづくりや中心市街地の回遊性の向上に鋭意取り組んでいく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度12月31日)

(中心市街地 区域)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	8,866	8,773	8,693	8,701	8503	
人口増減数	-	△93	△80	8	△198	
自然増減数	-	-	-	-	-	
社会増減数	-	-	-	-	-	
転入者数	-	-	-	-	-	

(2) 地価

		令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
住宅地	児玉町3丁目	74,600	76,100	77,600	79,300	81,300	
商業地	御幸通2丁目15番	131,000	131,000	132,000	135,000	139,000	
	桜馬場通1丁目13番外	77,600	77,600	78,000	78,600	79,300	
	平和通1丁目19番	112,000	111,000	110,000	110,000	112,000	
	本町1丁目20番	72,200	72,200	72,400	73,600	75,200	
	柳町13番2外	51,100	51,100	51,200	51,600	52,100	

2. 令和5年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化協議会では、協議会内に設置したタウンマネジメント会議を中心に、行政と民間が中心市街地の情報や課題を共有・連携し、解決策を模索しながら計画事業の推進に取り組んできた。

令和5年度は、徳山駅周辺官民連携管理運営事業の始動や、まちなか共創センターの開設など、新たな試みを通し、産官学共同で中心市街地の活性化を図る動きが進められた。

再開発事業においては、駐車場棟、住宅棟の供用開始、商業棟のテナントの一部開業により、中心市街地の利便性が向上し、「公園都市（パークタウン）周南」としての魅力が高められ、賑わいを取り戻しつつある。グランドオープンが令和6年度に延期されたが、オープン前から完成した再開発エリアを利用したイベントが開催され、市内外から多くの関心を集めている。

基本計画に掲げた事業は、概ね順調に進捗していると評価するが、数値目標の達成に向けては、官民の連携をさらに強化し、進めていく必要がある。

再開発事業による生まれる賑わいを一過性のものにせず、持続的に中心市街地全体に波及させるために、協議会としても一層尽力したいと考えている。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
みんなが行きたくなる、魅力あるモノ・コトがあふれるまち	物販・サービス業等新規出店数(件)	62 (H26～H30)	83 (R2～R6)	48 (R2～R5)	C	①	①
	中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)	936,940 (H30)	1,115,150 (R6)	688,393 (R5)	C	①	②
みんなが快適に過ごせる、歩きたくなるまち	平日歩行者等通行量(人/日)	32,937 (H30)	38,660 (R6)	27,958 (R5)	C	①	②

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「物販・サービス業等新規出店数(件)」については、基準値62件(1年あたり12.4件)に対し、令和5年度は12件の出店となり、基準値には達していないが、前年度の出店数を上回った。目標値については、今後再開発施設の商業棟に入居するテナントや、周辺商店街での新規出店相談も随時受け付けており、中心市街地全体で目標達成を目指す。

「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)」については、新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着いたが、長引く猛暑など他の要因も重なり、美術博物館を除く各施設の来館者数が、前年度から減少または概ね横ばいで推移し、宿泊者数においても漸減している。基準値を下回る結果となり、現時点では目標達成が困難であると考え。こうしたことから、本市の魅力をPRするためのイベントや、企画展などを引き続き開催し、市内外からの観光客の来訪を図ることで目標達成を目指す。

「平日歩行者等通行量(人/日)」についても、基準値32,937人に対し、令和5年度は27,958人と基準値に達しない結果となった。「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数(人/年)」の減少による影響に伴い、現時点では目標達成が困難であると考え。一方で、TOKUYAMA DECKのグランドオープンによる中心市街地の居住人口や来街者数の増加、交流機会の拡大等の効果も見込まれるため、公民で協働したイベントの実施や、ICTの活用による来街者数の分析等を行うことで、新たに生まれる賑わいの持続と波及に努め、目標達成を目指す。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数（人/年）」

令和3年度に「徳山動物園リニューアル事業（アジアの熱帯雨林ゾーン）」完了後、来園者数の増加が見られたが、令和5年度は、猛暑や人気動物の死亡の影響により前年度から約4万人減少した。

令和4年度の「児玉源太郎メモリアル事業」完了後においても、中央図書館の来館者数は横ばいで伸びが鈍化している。

本市最大の観光施設である徳山動物園の来園者数に大幅な増加が見込めないことや、その他の文化・観光施設においても、新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなっているものの、いずれも計画前年度の数値を下回っていることから、目標達成が見込まれない(②)と評価した。

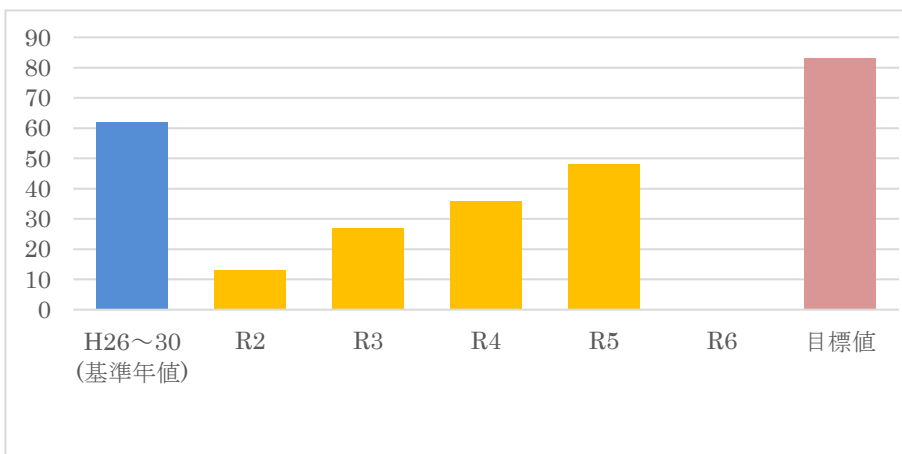
「平日歩行者等通行量（人/日）」

令和6年1月からは、「徳山駅前地区第一種市街地再開発事業」の商業棟のテナントが順次開業し、2月にはホテル棟もオープンした。駅周辺に新たな賑わいが生まれているが、計画の指標である「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数（人/年）」の減少にも影響されることから、目標達成が見込まれない(②)と評価した。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「物販・サービス業等新規出店数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 81～P. 84 参照

●調査結果と分析



※調査方法：毎年行っている中心市街地の商店街等の実態調査（営業店舗数、空き店舗数、業種業態割合等）をもとに調査を行う。

※調査月：毎年10月～12月頃

※調査主体：市

※調査対象：中心商店街等

〈分析内容〉

令和5年度の新規出店数は12件となり、基準値には達しなかったが、前年度の新規出店数を上回った。「テナントミックス推進事業」は予算を拡充して実施したことにより、本事業で新規出店に至った物販・サービス業等新規出店数は5件に上る。既に中心市街地内に店舗を有している方による異業種の出店や、これまで不足していた業種の出店などにより、中心市街地の利便性が向上した。

新規出店や創業に関する相談も随時受け付けており、再開発施設の商業棟をはじめ、今後も中心市街地の商業・サービス機能の充実が期待される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業（徳山駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【済】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値10件 最新値12件 再開発施設のグランドオープンは令和6年度に延期され、令和5年11月時点での最寄りの測定地点の通行量は、令和4年度の4,216人から令和5年度は2,404人と減少している。 一方で、再開発施設の駐車場棟、住宅棟が完成し、供用を開始しており、令和6年1月からは、商業棟のテナントが順次開業し、2月にはホテル棟もオープンしたことから、駅周辺に新たな賑わいが生まれた。
事業の今後について	再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市街地活性化協議会と連携して行っていく。

②. 徳山あちこちマルシェ（徳山あちこちマルシェ実行委員会）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	徳山駅南北自由通路から商店街一帯を会場とした回遊性のあるマルシェイベントの実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値3件（②+③） 最新値 ー

	令和4～5年度は開催していないが、当マルシェを参考に新しく主催を希望する団体も生まれ、まちづくりのプレイヤー増加による賑わいの拡大が期待される。
事業の今後について	今後もマルシェの手法を広め、中心市街地内の店舗の魅力の再発見や中心市街地への出店のきっかけとなるよう努めていく。

③. つながる「場面」づくり ～SLS(Super Local Site)～（徳山あちこちマルシェ実行委員会、徳山商工会議所、ナシブドウグミ）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	統一的なマルシェの空間をつくるための、出店用のセットを作成・貸出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値3件（②+③） 最新値 ー 中心市街地内外で開催するマルシェイベントにて、令和5年度は出店用セットを19件貸出した。これにより、同じデザインの店舗が並び、統一された空間のプロデュースを行うことができ、イベントの価値の向上が図られた。
事業の今後について	SNSでの発信等により、認知度の向上を図る。

④. テナントミックス推進事業（徳山商工会議所、株式会社まちあい徳山、周南市）

事業実施期間	平成13年度～【実施中】
事業概要	中心商店街において新規出店する民間事業者に対して、店舗改装費、広報宣伝費を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業【総務省】（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	最新値7件 令和5年度は、再開発事業により多様な業種の出店が見込まれることから重点出店業種を設けず、補助限度額を最高100万円とした。採択件数は、予算を拡充して実施したことにより、令和4年度の4件から7件（うち物販・サービス業5件）に増加しており、順調に進捗している。今後も制度の周知や新規出店希望者の支援を継続していく。
事業の今後について	再開発施設のグランドオープンの延期に伴い、補助上限額は令和5年度と同額としたが、引き続きまちなか出店サポー

	トセンター等と連携して事業の周知を図り、商店街へ魅力的な店舗や必要な機能の誘導に繋げる。
--	--

⑤. 閉店・物件活用相談サポート事業（株式会社まちあい徳山、周南市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	商店の閉店や、閉店後の物件の活用に関する相談を受ける窓口の設置
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 5 件 最新値 1 件 株式会社まちあい徳山が、閉店に関する相談を受け、サポートした結果、令和2年度には、個人店舗1件を株式会社に譲渡する事業承継を行うことができた。 令和3～5年度の実績はなし。
事業の今後について	令和6年度以降も事業を継続し、店舗の有効活用や新陳代謝を進めていく。

⑥. 徳山駅前市街地再開発事業実施に伴う周辺エリアの回遊性創造プロジェクト（中心市街地活性化協議会、株式会社まちあい徳山）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に併せ、中心市街地内の不足業種の洗い出しや、回遊を促すためのマグネットとなるための店舗の抽出、再発見を行うことにより、再開発施設の周辺の商店街への回遊性の向上を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業【経済産業省】令和2年度～令和6年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 ー 最新値 ー 令和2年度のゾーニング&マグネット会議での検討結果に基づき、令和3～4年度はテナントミックス推進事業の特例措置として、重点出店業種に対する補助限度額を最高100万円から最高200万円とした。令和5年度以降は再開発事業による商業棟内の業種が未確定であったことから重点出店業種は設けず、補助限度額を最高100万円としたが、事業の予算を拡充することで、採択件数は、令和4年度の4件から7件（うち物販・サービス業5件）に増加した。これまで計画区域

	内にはなかったコワーキングスペースやプリントギャラリーも出店され、中心市街地の利便性が向上した。
事業の今後について	令和6年度以降も、テナントミックス推進事業等による新規出店希望者の支援により、魅力ある店舗の増加を目指す。

⑦. 空き店舗見学ツアー事業（中心市街地活性化協議会）

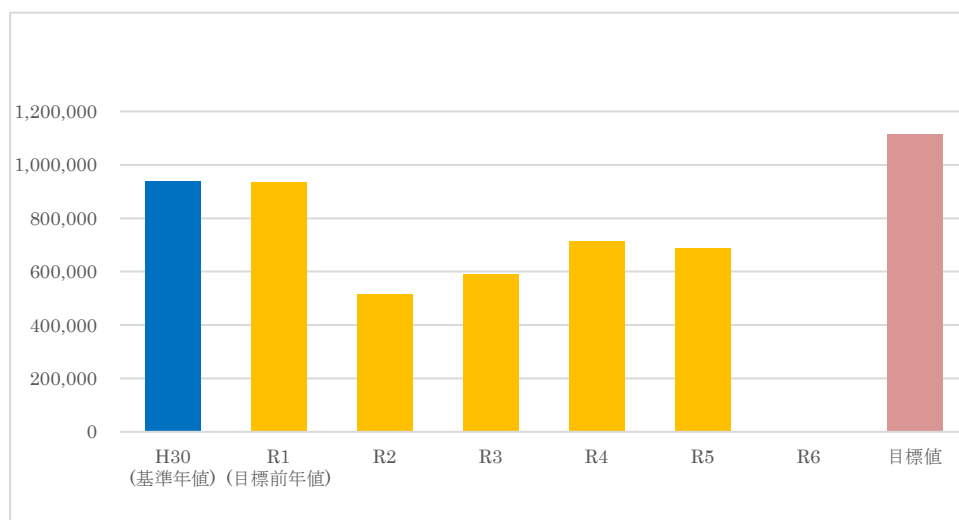
事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	空き店舗への新規出店を促すために、空き店舗見学ツアーを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 3 件 最新値 0 件 令和3年度に2回実施。参加者の中から、ツアーで紹介した箇所とは別店舗ではあるが、テナントミックス推進事業と絡めて開業準備を進めた事例がある。令和4～5年度の実績はなし。
事業の今後について	令和6年度以降も継続して開催し、新規事業者の呼び込みを目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和5年度は、「テナントミックス推進事業」の予算を拡充し、多様な業種の出店補助を行ったことにより、前年度の新規出店数を上回った。基準値には達していないが、今後再開発施設の商業棟に入居するテナントや、再開発事業を見越した出店の動きも多く見受けられ、店舗の新陳代謝が活発化していることから、目標達成が可能であると見込まれる。新規出店相談も随時受け付けており、マルシェでチャレンジブースとして出店後、開業に繋がった取組みもある。再開発施設のグランドオープン後も、こうした新規出店支援を継続し、中心市街地全体で目標値の達成を目指す。

(2)「中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数」※目標設定の考え方認定基本
計画 P. 85～P. 88 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30	936,940 (基準年値)
R1	933,153 (計画前年 値)
R2	516,394
R3	589,539
R4	714,735
R5	688,393
R6	1,115,150 (目標値)

※調査方法：【動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館】

各施設が公表している年間入館者数（4月～翌年3月）を調査

【宿泊者数】

毎年行っている観光動態調査にて、中心市街地エリア内の年間（1月～12月）観光宿泊者数を調査

※調査月：【動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館】

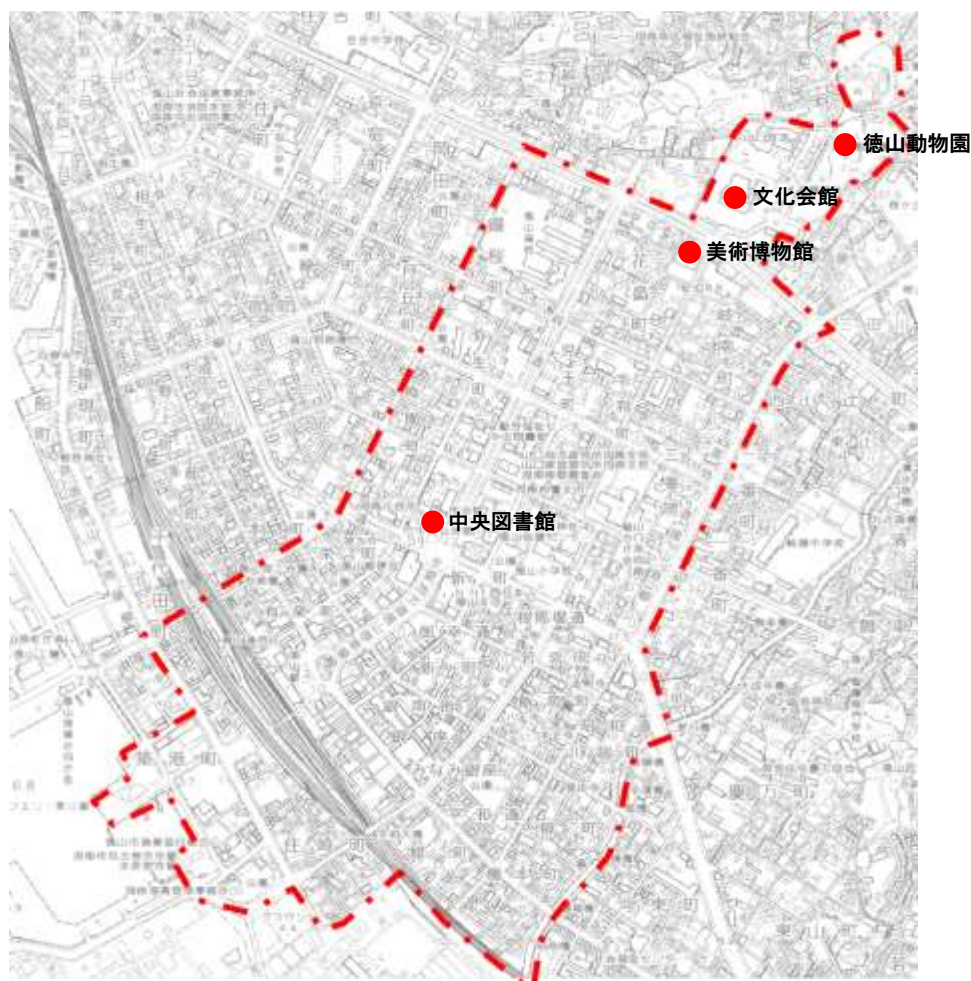
各年4月～3月

【宿泊者数】

各年1月～12月

※調査主体：市

※調査対象：動物園、文化会館、美術博物館、中央図書館、中心市街地エリア内宿泊施設



(単位：人)

	R1 (計画前年度)	R2	R3	R4	R5	R6
徳山動物園	268,607	195,757	208,499	263,406	223,577	
文化会館	266,557	56,923	112,900	141,144	141,827	
美術博物館	108,653	27,189	24,987	40,926	66,986	
中央図書館	119,348	102,727	95,509	107,760	107,868	
宿泊者	169,988	133,798	147,644	161,499	148,135	
合計	933,153	516,394	589,539	714,735	688,393	

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着いたが、長引く猛暑など他の要因も重なり、美術博物館を除く各施設の来館者数が減少または概ね横ばいで推移し、宿泊者数においても漸減している。

徳山動物園では、前年度の来園者数から約4万人下回った。要因としては、猛暑や人気動物の死亡が考えられ、夜間開園やミストの設置、イベントの充実等を検討している。

文化会館、中央図書館は概ね横ばいで推移しているが、美術博物館については、市制20周年記念事業として、国民的アニメや動物写真家の展示会などで幅広い世代の方が

来館したことにより、前年度の来館者数を約2万6千人上回った。

宿泊者数においては、周南市内の対象施設宿泊者に、市内の飲食店や観光施設などのクーポン券を配布する「泊まって応援！周南お楽しみクーポン」や、全国旅行支援等の観光需要喚起策を継続したが、前年度から約1万3千人下回り、文化・観光施設来館者数の減少が影響したものと想定される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業（徳山駅前地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【済】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 25,550人 最新値 ー 再開発施設のグランドオープンは令和6年度に延期され、令和5年11月時点での最寄りの測定地点の通行量は、令和4年度の4,216人から令和5年度は2,404人と減少している。 一方で、再開発施設の駐車場棟、住宅棟が完成し、供用を開始しており、令和6年1月からは、商業棟のテナントが順次開業し、2月にはホテル棟もオープンしたことから、駅周辺に新たな賑わいが生まれた。
事業の今後について	再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市街地活性化協議会と連携して行っていく。

②. 徳山動物園リニューアル事業（アジアの熱帯雨林ゾーン）

事業実施期間	令和元年度～令和3年度【済】
事業概要	徳山動物園内に、アジアの熱帯雨林ゾーンを設け、スリ兰卡ゾウやマレーグマ、熱帯雨林の鳥類等の動物を観覧できるゾーンを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園・緑地等事業）【国土交通省】（平成27年度～令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 34,562人 最新値 ー 56,965人 令和2年度にマレーグマ舎及び爬虫類舎の整備が完了したほか、令和3年度は、ゾウ飼育場（ゾウ舎は平成31年度に完

	了)、ヤマアラシ飼育場、コツメカワウソ飼育場及び園路・植栽等の周辺整備が完了した。
事業の今後について	令和5年度から令和6年度にかけて、極東アジアから北極圏の自然ゾーンの整備を進めていく。

③. 児玉源太郎メモリアル事業

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	中央図書館にて、児玉源太郎の功績の紹介や、児玉源太郎にまつわる品々を展示するコーナーを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 7, 688人 最新値 - 45, 884人 令和4年度に常設の展示コーナーを設置した。
事業の今後について	令和4年度に常設の展示コーナーを設置した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「徳山駅前地区第一種市街地再開発事業」は、グランドオープンが令和6年度に延期されたが、その他の事業は概ね順調に進捗した。しかしながら、各施設及び宿泊者数において、いずれも計画前年度を下回る結果となっている。

令和3年度に「徳山動物園リニューアル事業（アジアの熱帯雨林ゾーン）」完了後、来園者数の増加が見られたが、令和5年度は、猛暑や人気動物の死亡の影響により前年度から約4万人減少した。同種の新たな導入は、本計画期間後に実施する別ゾーンのリニューアル事業による新しい獣舎の完成後としている。

令和4年度の「児玉源太郎メモリアル事業」完了後においても、中央図書館の来館者数は横ばいで伸びが鈍化している。

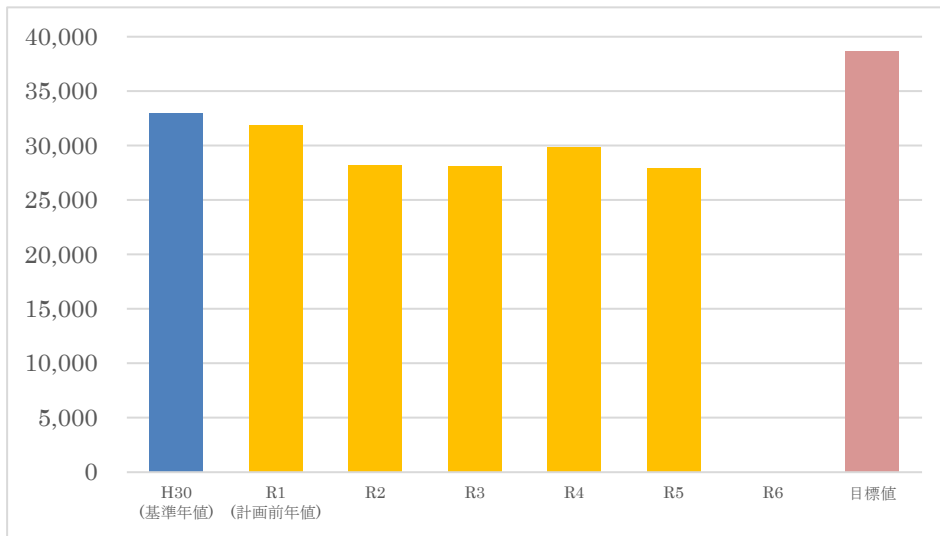
本市最大の観光施設である徳山動物園の来園者数に大幅な増加が想定できないことや、その他の文化・観光施設においても、計画前年度の数値を下回っていることから、目標達成は困難な状況である。

今後の対策として、徳山動物園では、夜間開園やミストの設置、イベントの充実等を検討している。他の文化・観光施設においても、情報発信への注力や、集客力のある企画を実施していくことで、市内外の関心を高め、中心市街地への来街者数の増加を図っていく。

また、再開発事業によって中心市街地の居住人口、来街者数、宿泊者数の増加が見込まれており、関係団体と連携してサービス面・文化面などの観光資源の磨き上げ、本市の魅力づくりを行っていくことで、引き続き目標達成を目指す。

(3) 「平日歩行者等通行量」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 89～P. 94 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H30 (基準年値)	32,937
R1 (計画前年値)	31,881
R2	28,217
R3	28,084
R4	29,841
R5	27,958
R6	38,660
目標値	38,660

※調査方法： 平日1日間の午前10時～午後7時までの通行量を測定（悪天候の場合等には予備日にて実施）

※調査月： 各年10月～12月

※調査主体： 市

※調査対象： 中心市街地エリア内計15カ所における自転車及び歩行者の通行量



(単位：人)

	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
A 広島銀行前	1,922	1,675	1,418	1,143	1,440	
B vec 前 (旧フタバフルーツ パーラー前)	4,098	3,866	4,039	4,216	2,404	
C どさん子徳山駅前店前 (旧 藤本たばこ店前)	2,929	2,663	3,138	2,699	2,307	
D 有吉有文堂印房前	1,142	1,089	890	1,039	1,125	
E 石田屋ビル前 (新町)	1,064	961	805	845	2,030	
F ダイヤビル前	1,462	1,216	1,054	1,138	1,170	
G エムラ前	1,753	1,778	1,384	1,327	1,343	
H 河村玉煎堂前	727	735	618	620	486	
I セブネス銀座南	2,330	1,931	2,342	2,805	2,408	
J セブネス銀座東	1,161	1,109	921	1,160	1,119	
K みずほ銀行・大和証券前	4,974	4,314	4,878	5,943	5,012	
L 伊藤ビル前東	1,353	1,156	1,092	884	693	
M 沖ビル前	1,166	1,084	900	885	804	
N グランドール徳山前 (岐山通)	1,474	1,699	1,544	1,639	1,731	
O 南北自由通路 (南側)	4,326	2,941	3,061	3,498	3,886	
合計	31,881	28,217	28,084	29,841	27,958	

〈分析内容〉

平日歩行者等通行量については、殆どの地点が前年度と比較して漸減または概ね同等の数値で推移している。

前年度から顕著に増加した地点としては、「地点E 石田屋ビル前 (新町)」が挙げられる。新町通の市道整備を実施したことで高質な歩行者空間が形成され、銀南街においても新規出店が相次いだことなどの影響が推察される。「地点A 広島銀行前」やPH通り西側の「地点D 有吉有文堂印房前」「地点F ダイヤビル前」が増加傾向にあるとおり、銀南街やPH通りから中心市街地に来街する人数が増加したと考えられる。これに伴い、「地点C どさん子徳山駅前店前 (旧藤本たばこ店前)」や「地点K みずほ銀行・大和証券前」の銀座通りから来街する人数が減少し、「地点B vec 前 (旧フタバフルーツパーラー前)」は前年度から大きく下回った。増加した地点の差分と比較して減少した地点の差分が上回ったため、合計値は約1,900人減少する結果となった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 徳山駅前地区第一種市街地再開発事業 (徳山駅前地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【済】
事業概要	徳山駅前商店街の一部を大街区化し、業務・オフィス施設、マンション、生活支援サービス、ホテル、商業施設、駐車場、

	駐輪場、広場等を整備
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）【国土交通省】（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 5,426人/日 最新値 ー 再開発施設のグランドオープンは令和6年度に延期され、令和5年11月時点での最寄りの測定地点の通行量は、令和4年度の4,216人から令和5年度は2,404人と減少している。 一方で、再開発施設の駐車場棟、住宅棟が完成し、供用を開始しており、令和6年1月からは、商業棟のテナントが順次開業し、2月にはホテル棟もオープンしたことから、駅周辺に新たな賑わいが生まれた。
事業の今後について	再開発事業による周辺商店街への回遊、区域全体での集客を図るまちづくりを進めるための検討を中心市街地活性化協議会と連携して行っていく。

②. 徳山駅南口広場整備事業（周南市）

事業実施期間	平成22年度～令和2年度【済】
事業概要	徳山駅南口駅前広場において、交通ターミナルの機能を向上させる整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業【国土交通省】（令和2年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 221人/日 最新値 ー 539人/日 令和3年3月完了。
事業の今後について	南側の玄関口が整備されたことによって、街と港との連続性による回遊性の向上が見込まれるほか、周辺の都市開発が進むことが期待される。

③. 徳山駅前北口広場活用事業（周南市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	令和元年度に完成の徳山駅北口駅前広場について、イベント等に活用しやすくするために、利用の際のルール整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値	事業目標値 ー

値及び進捗状況	最新値 ー 令和5年度から「徳山駅周辺施設官民連携管理運営事業」の開始により、民間のノウハウを活用しながら徳山駅北口駅前広場を含む周辺施設の利活用促進に取り組んだ。 イベントの実施件数（啓発活動を含む）として、令和4年度の50件から令和5年度は131件と大幅に増加している。
事業の今後について	令和6年度も事業を継続し、周辺施設との連携を強化しながら施設の利活用を図っていく。

④. 徳山駅前市街地再開発事業実施に伴う周辺エリアの回遊性創造プロジェクト（中心市街地活性化協議会、株式会社まちあい徳山）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	徳山駅前地区第一種市街地再開発事業に併せ、中心市街地内の不足業種の洗い出しや、回遊を促すためのマグネットとなるための店舗の抽出、再発見を行うことにより、再開発施設の周辺の商店街への回遊性の向上を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業【経済産業省】令和2年度～令和6年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 ー 最新値 ー 令和2年度のゾーニング&マグネット会議での検討結果に基づき、令和3～4年度はテナントミックス推進事業の特例措置として、重点出店業種に対する補助限度額を最高100万円から最高200万円とした。令和5年度以降は再開発事業による商業棟内の業種が未確定であったことから重点出店業種は設けず、補助限度額を最高100万円としたが、事業の予算を拡充することで、採択件数は、令和4年度の4件から7件（うち物販・サービス業5件）に増加した。これまで計画区域内にはなかったコワーキングスペースやプリントギャラリーも出店され、中心市街地の利便性が向上した。
事業の今後について	令和6年度以降も、テナントミックス推進事業等による新規出店希望者の支援により、魅力ある店舗の増加を目指す。

⑤. シビックプラットホーム活用事業（周南市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	市役所のシビックプラットホームを、市民の活動の場として活用する。
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値 60人/日 最新値 1,731人（通行量調査地点 N グランドール徳山前（岐山通））</p> <p>当該事業に一番近い測定地点の通行量は、令和4年度の1,639人から令和5年度は1,731人と増加している。マルシェイベントであるしゅうなんシビックマルシェは、前年度は3回（7月3日、10月5日、12月7日）開催され、来庁した市民と生産者を繋ぐ場として賑わいを創出した。</p> <p>また、フリーWi-Fiも導入されており、Web会議や講演会等で活用されている。</p>
事業の今後について	令和6年度以降も会議室としてだけでなく、イベントでの使用許可を継続することで、賑わいの創出に繋げていく。

⑥. 商店街で育む子どもの可能性を伸ばす場作り事業（株式会社コミクリ）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	まちづくり会社や商店街と連携し、小学生の放課後や長期休暇などに、就業体験やIT学習のできる場を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>事業目標値 13人/日 最新値 693人（通行量調査地点 L 伊藤ビル前東）</p> <p>当該事業に一番近い測定地点の通行量は、令和4年度の884人から令和5年度は693人となった。</p> <p>令和3年度は、令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、商い体験は実施せず、オンラインでのITツールを活用した多様な学び体験とした。</p> <p>令和4～5年度の開催実績はないが、今後も地元団体との連携を検討していく。</p>
事業の今後について	令和6年度については、地元団体との連携を検討していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「徳山駅前地区第一種市街地再開発事業」は、グランドオープンを令和6年度に延期したが、その他の事業は効果的に実施しており、概ね順調に進捗している。

目標達成の見通しについては、再開発事業による中心市街地の居住人口、来街者数、宿泊者数の増加が中心市街地の活性化に大きく寄与するものと見込まれるが、中心市街地内文化・観光施設来館者数及び宿泊者数が減少傾向にあるため、目標達成は困難な状況

である。

　　今後は、より一層の新規出店支援やイベントの公民協働実施等、中心市街地の魅力向上に取り組み、歩きたくなるまちづくりを進めていく。また、既存商店街や各施設と連携し、回遊性向上施策やICTの活用による来街者数の分析等も行うことで、再開発事業後もニーズの把握や賑わいの持続に努めていく。